

民族舞踊文化



No.17

2005年5月9日

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

財団法人 黛民族舞踊文化財団

〒107-0052 東京都港区赤坂3-10-3 黛ビル4F TEL 03-3583-3633(代)
FAX 03-3583-3639



怒江傈僳族自治州建州 50 周年記念合同公演 ^{リス} 怒江会堂にて

2005年のアジア民族舞踊交流

財団法人 黛民族舞踊文化財団

理事長 犬丸 直

昨年は東アジアの諸国で激しい津波の被害をうけましたし、日本でも北陸地方では強い地震で多くの人命や土地・財産に多大な損害をこうむりました。世界のその他の地域でも、旧年来の余燼はなをくすぶりつづけております。そのようななかにもありながら、私共は永遠の生命を持続して人々の心をうるほし、育成している民族芸能の伝習と継接に触れ、感得できますことを、心より期待して大へん楽しみにしております。

皆様御一同の平安な御来日を、そして日本御滞在が有意義なうえにも楽しく、そして永くお心に止まりますよう衷心より祈り上げます。

2004年世界舞踊祭に参加

2004年7月4日（日）

筑波大学教授国枝タカ子先生主宰の「世界舞踊祭」が、この年も港区赤坂区民センターで開催された。今回は当財団が主体となって事業を推進した。年2回企画上演されるこの催しは世界各国の民族舞踊を中心に、出演団体はプロとアマチュアが混じった構成で幅広いジャンルの舞踊グループが出演した。

当財団の演目は新潟県刈羽郡鶴川に伝わる阿国歌舞伎の型を残すといわれる「小原木」、と「ややこ踊り」。山形県地方の民謡を現代のリズムにアレンジした「花笠踊り」。四つ竹をリズムカルに打ちならす「会津磐梯山」。東北の「じょんがら節」。富山県八尾地方の“風の盆”で有名な「越中おわら」。沖縄地方の「鳩間仲森」、「黒島口説」などを上演した。

開演に先立ち、大野常務理事が黛民族舞踊団の成り立



フラ・ハラウ・トモ・ハラガ

ちと最近の活動、並びに国際交流について話された。内容は「民族舞踊の国際交流事業に携わって感じたことは、日本とアジア大陸の国々とは民族舞踊に対する伝承システムの違いを感じる。諸外国では国家的規模で養成システムが出来上がっている。それに対して日本では各地の「保存会」又は一部の志ある舞踊家によって支えられているにすぎない。諸外国の場合は舞踊専科としてバレエをはじめダンスの基礎的なカリキュラムと平行して民族舞踊が組み込まれている」等等、又「民族舞踊の場合、個々の作品の持つ宗教性、地域性、労働性など、もって生まれた特性を損なわないようにしなければならない。民族舞踊の魅力は、潜在的に民族の中にあるアイデンティティー、自らを感じ取るところにある。」というようなことであつた。



地唄舞 花崎杜季女



黒島口説 黛民族舞踊団



鳳仙功舞踊研究所



バンビ タンダバハ・ダンスカンパニー

Dance For All ! World Festival 2004

第3回世界舞踊祭プログラム

第一部

- | | |
|-------------|------------------|
| 1 動物園へ行こう | タンダバ・ハ・ダンス・カンパニー |
| 2 こじかのパンビ | // |
| 3 てまりうた | // |
| 4 折り紙の幻想 | // |
| 5 カウル・ヒオカイ | フラ・ハラウ・トモコ・ハラカ |
| 6 マブ・マウケアラ | // |
| 7 プー・プー・ヒヌヌ | // |
| 8 パリシエル | // |
| 9 クムリポ | // |
| 10 マイレレイ | // |
| 11 チレリンド | チリ民族舞踊団 |

第二部

- | | | |
|---------|--------|--------|
| 1 ややこ踊り | 日本民族舞踊 | 黛民族舞踊団 |
| 2 小原木 | 日本民族舞踊 | 黛民族舞踊団 |
| 3 小簾の戸 | 地唄舞 | 花崎杜季女 |
| 4 花笠踊 | 日本民族舞踊 | 黛民族舞踊団 |
| 5 越中おわら | 日本民族舞踊 | 黛民族舞踊団 |
| 6 高砂 | 地唄舞 | 音枝輝紀社中 |
| 7 珠取り | 地唄舞 | 音枝輝紀 |
| 8 会津磐梯山 | 日本民族舞踊 | 黛民族舞踊団 |

第三部

- | | | |
|---------|----------|----------|
| 1 扇の舞 | 韓国舞踊 | 梅の会 |
| 2 棒踊り | 日本民族舞踊 | 黛民族舞踊団 |
| 3 採茶舞曲 | 中国民間舞踊 | 鳳仙功舞踊研究所 |
| 4 じょんがら | 日本民族舞踊 | 黛民族舞踊団 |
| 5 弓舞 | 中国古典舞踊 | 鳳仙功舞踊研究所 |
| 6 散調 | 韓国舞踊 | 韓国創舞会 |
| 7 さいたら節 | 日本民族舞踊 | 黛民族舞踊団 |
| 8 春の歌 | モンゴル民族舞踊 | 鳳仙功舞踊研究所 |
| 9 青龍 | 鳳仙功舞踊 | 鳳仙功舞踊研究所 |
| 10 黒島口説 | 日本民族舞踊 | 黛民族舞踊団 |

スタッフ

- | | |
|-------------------|-------|
| 総合プロデュース | 大野 晃 |
| 照明 (エクサート松崎) | 井上 正美 |
| 音響 (サウンドクラフト) | 八幡 泰彦 |
| 舞台監督 (ニケステージワークス) | 八木 清市 |

製作 世界舞踊祭実行委員会

委員長 国枝 たか子



チレリンド チリ民族舞踊団



散所 創舞会 鄭蘭



地唄舞 珠取り 音枝輝紀

ワールドカルチャーオープン2004

WCOグローバルフェスティバル2004

「ワールドカルチャーオープン2004」のタイトルで韓国ソウル市で開催された。

ニューヨーク(9/8,9/10) ソウル・ピョンヤン・板門店(38度線)(9/11,9/19)で開催された。

主催 ワールドカルチャーオープン組織準備委員会

主管 (株)ユエックス、ウリナラネット(株)、中央カルチャーネット

後援 ソウル市、中央日報、国際2001クラブ、民族和平協力国民協議会

このフェスティバルの主旨は健康と生の美しい世界のために活動する団体と個人を探し出し、その努力と成果をわけあう活動を 激励するため WCO 賞を与えることが主たる事業目的であった。

今回は、韓国の舞踊家金梅子先生の紹介により、黛民族舞踊団と中国少数民族舞踊家が出演した。

WCOスケジュール

9月14日(火)

「冬ソナ」のツアー客で満席のCZ105 便アジアナ航空で出発し仁川空港に12時30分到着。

世界八カ国(韓国、スリランカ、スーダン、ベトナム等)

音響にトラブルがあり、開始が遅れる。

各チーム30分の割り当て、日本チームは最後。

中央日報(新聞記者)のインタビューを受けた後、大野団長とスタッフの打合せとなる。

化粧、衣裳つけスタンバイをして待つ。

17時

リハーサル5曲

18時

本番スタート。

日本は5番目、休憩して20時10分終了。

お客様はどうかと案じる。

早替わり打合せトラブルなし、無事成功。

終演後金梅子先生招待の食事会に出発。中国雲南チームと一緒に新村のホンイツ大学そばの韓国料理店東村(トンチョン)へ。

中国チームとはテーブルは別々だったが互いに乾杯をし、金梅子先生、金善美先生とも一緒にお話する。とても家庭的な雰囲気の家であった。

財団より金先生に梅と桜の浴衣の部屋着をプレゼント。22時30分出発。23時30分ホテル到着。各自衣装整理をして休む。



越中おわら

9月15日(水)

- 11時20分 出発
12時20分 入場
12時30分 開始 それぞれあいさつ
表彰式
14時 七部門調和賞・平和賞授与式
14時20分 歌 民族舞踊 武道写真
共存の提案
14時50分 「一山(イルサン)」着、
バスの中で化粧、着替え。
15時40分 衣裳をつけて待ったがそのう
ち雨が降り出し、テントの中
へ逃げ込む。雨の中ベルギー
チームの公演中お客様も帰ら
ず、ビニールシートを敷いて
もらいスタンバイ。出演とり
やめの危機もあったがすぐ
に公演して後片付けをする。
- 18時30分 山花市場1階にてバイキング
19時 閉幕式
20時50分 雨も降り出したので9時ホテルへ戻る。
翌日のスケジュールを確認の
後、各自の部屋で衣裳を片付
ける。
22時30分 張亜錦先生、お別れの
あいさつに見える。
23時10分 東大門へ買い物に行く。
02時 ホテルに戻る

9月16日(木)

大雨

- 19時15分 出発
20時15分 仁川空港着。大野先生は講演
の為博多直行便に乗られ、団員
と別れる。
21時30分 ゲート入り
22時30分 OZ102便、仁川空港よ
り出発。快適な旅で12時30
分成田着。無事に公演を終え
て帰国した。



ややこ踊り



会津磐梯山

黛民族舞踊文化財団第8次訪中団日中舞踊交流会

2004年11月12日～11月22日

訪問先：中国雲南省 楚雄市、怒江州、昆明市



怒江僳僳族自治州文化部の庭園にて リス 段部長と大野団長

訪中団メンバー

団 長 大野 晃

団 員 黛 智英
黛 今日子
黛 莉香
伊藤みつ子
田母神裕子
田母神葉子
村上 弥生
藤原 明人

《黛民族舞踊文化財団第8次訪中団》スケジュール 2004年

- 11月12日(金) 香港泊。
- 11月13日(土) 昆明到着後バスにて楚雄市へ。
- 11月14日(日) 怒江州六庫着。
- 11月15日(月) 怒江州瀘水県上江村でリス族と交流。
夜、怒江州建州50周年記念パーティー
に出席。
- 11月16日(火) 怒江州建州50周年式典開幕式に出席。
大型歌舞「怒山・怒水・奴江人」を観賞。
- 11月17日(水) 怒江会堂にて中国、ミャンマー、日本
の合同公演。
- 11月18日(木) 怒江州から大理へ。大理泊。
- 11月19日(金) 大理発、昆明市到着。
- 11月20日(土) 雲南芸術学院舞踊学院にて。
学院生と合同公演。
- 11月21日(日) 雲南省文連の歓迎宴に出席。
- 11月22日(月) 香港経由で帰国。

第8次訪中に際し張先生から連絡が入り18年前1986年日本に來日した怒学文先生のふるさと怒江州建州50周年祝典に、州政府の貴賓招待としてお招きしたいという連絡が入る。第2回日中交流の一環として來日した怒江舞踊団の怒学文先生にお目にかかる事は感慨深いものがある。

來日した当時、若く澁刺とした怒先生に鹿おどりを教えていた黛節子先生。そして、いつの日かきっとあのすごい山の怒江に行きたいと心たのしみに待っていた黛先生の姿が思い浮かぶ。

韓国公演を終えて帰国後すぐ中国行きの手配に入ったが直行便は往復とも満席、結局出発は12日という事で香港経由で出かけることになった。



怒江州建州50周年記念式典

11月12日(金) 雨

8時 成田集合。早めにヤマト運輸に荷物を取りに行ったらトランク1個の不足が発覚、至急調べてもらい10時の飛行機に間に合うように手配した。一件落着。

9時50分 JAL731便で香港へ(13時50分着)。

14時40分 リーガル・エアポートホテルにチェックイン。

15時30分 香港半日観光へ

リバウスベイ(浅水湾)、ビクトリアピークを観光する。何年か前に訪れた香港とはずっと変わって新しい近代的な街となっている。

21時30分 ホテルへ戻り、各自部屋に入り休む。

11月13日(土) 晴

9時30分 チェックアウト。

9時40分 徒歩にて空港へ。

11時45分 ドラゴン・エア航空KA760便で昆明へ(14時20分着)。

張先生、鄧先生、通訳の聶さん、運転手の王さんの出迎えを受け、バスで楚雄へ。

19時15分 雄宝大酒店に着き、楚雄州文連周文義主席、以前日本に招へいした楚雄州舞蹈家協会名誉主席呉甘さん、副主席楊銳森さんと再会する。民族風情園にて夕食。民族舞踊のショーがあり、作曲家の欧建寧さんも参加し、楚雄州の文連、舞踊団の先生方も彝族の歌を歌われる。舞踊団一行は舞台の上での輪踊りに参加する。

久しぶりに舞踊家の周培武先生にお目にかかる。周先生は今回の交流で昆明に着いたらご自宅に招待したい旨を申し出られる。

21時30分 ホテルへ。各自休む。



中日民間文芸家座談会

11月14日(日) 晴

9時 集合。出発。目的地怒江州までは400km。

14時30分 瓦窯農家楽飯店にて昼食。

16時10分 出発。

18時 怒江州の辺境防衛検査処で歓迎式。怒江州文連李昭恩主席、趙鉄榮主任、秘英文秘書長の歓迎を受け、来賓の歓迎のしきたりで米酒をいただく。

怒江に沿って絶壁の間を縫って、デコボコの道(整備中の高速道路)を約10時間走り続けた。

怒江州建州50周年の旗、幕などがかかっている。州都の六庫に着く。六庫は標高875メートル、人口5万人の都市だ。住民の半数はリス族、他にヌー族、トールン族、プミ族などがいる。夏は気温摂氏40度を超える熱帯雨林気候だが、朝晩は寒い。雨季は洪水に見舞われる。途中、洪水で破壊された発電所があった。

サトウキビ畑が多く、ポインセチアも良く見かけた。沖縄の風景とそっくりに思えた。



リス
僂僂族の村にて

18時25分 市内は発展している。電信賓館に到着。
18年前に日本に来た怒学文さんと再会。
黛節子先生の思い出を語り合う。

19時 石月亮餐厅で李主席の歓迎宴に出席。夕食後お祭のために美しくライトアップされた橋を渡り、対岸に渡って新しく作られた遊歩道を散策しながらホテルに戻る。

11月15日(月) 晴

8時50分 集合。漢方薬などたくさんおみやげをいただく。バスで瀘水県上江村に行き、リス族の村で取材をする。

村の民間芸術団のリス族の「摆時」(バイシー)という曲の四部合唱(音階の違う歌)と踊りを観賞し、その曲を習う。

東京の下町の木遣りのような合唱が始まる。全員右手を耳に当てて歌っている。リス族は口げんかまで歌でやるという。

踊りは伴奏なしで女性が輪になって、足踏みでリズムをとるものから始まった。男性が時々合いの手をいれるのがフラメンコのような。足の裏で地面をこするようにして後ろへ蹴り上げるステップが特徴的。小さい笛とマンドリンのような楽器が加わるものもある。衣裳に白い玉飾りをたくさんつけている。これは貝で、内陸の地では貴重な輸入品であったため財産の象徴なのだそうだ。

日本側の出し物として花笠踊りを見てもらい、一緒に輪になって踊る。いつのまにかお酒も出て、入り乱れて楽しく笑い合ううちにお開き。おみやげに楽器と杖をもらう。

14時 ホテルで休憩した後、バスで少し上流まで行き、瀘水県の辣子米というところで「綱渡り」に挑戦。この辺りの人は兩岸に渡したワイヤーに自前の滑車をかけて川を渡る。昔交通が未発達で怒江に橋がかかっていなかったころの名残だという。それを体験できるスリル満点のスポットがあったので団員のうち何人かがチャレンジした。現地の若者が一緒に渡ってくれるし、意外と快適で怖くなかったとのこと。

また、新節には混浴で温泉に入る習慣があるそうだ。

17時30分 レストラン六庫飯店で開かれた怒江州建州50周年記念パーティーに出席。中共怒江州委副書記王仕宗先生から歓迎の挨拶を受ける。その席で雲南聯誼協会の初鹿野理事長に会う。

19時 ホテル・ミーティング

20時45分 怒学文先生宅に舞踊団全員で行き、トールン族のとり酒(しょうちゅうの酒、大切なお客様にしか出さないそうだ)、チベット族のバター茶(ヤギの乳からつくる)などをごちそうになる。

11月16日(火) 晴

9時 六庫の新築の怒江州民族体育館に到着。怒江州建州50周年式典開幕式に出席する。大型歌舞「怒山・怒水・怒江人」を観賞。

14時10分 出発。三江文化宮にて書と絵画の展覧会を鑑賞。墨で記帳。

16時 ホテルに戻り稽古。

18時50分 出発

20時 午前中と同じ会場での「篝火の夕べ」観賞。民間芸術家たちの歌舞や絶技(刀の梯子に登ったり火の上を渡ったり焼けた鉄を口に入れたりする)終了後観客も踊りの輪に加わり一晩中踊り続けるそうだ。

22時30分 電信賓館に戻り。各自部屋に入る。



怒江傈僳族自治州文化部の庭園にて

11月17日(水) 晴

8時30分 浴衣で集合。

9時50分 できて間もない怒江会堂で日本・中国・ミャンマーの三国が合同稽古。

12時 昼食。

15時 怒江リス族自治州文化局にて怒江州主催の座談会に出席。会議は州文連の李昭恩主席が主催し、中国側は州委宣伝部長段斌先生、怒学文先生、その他文連宣伝部の先生、地元の画家、詩人、怒江州少数民族研究家、民族舞蹈団団長等の方々が出席された。

18年前第2回訪日団として怒江州の怒学文先生が来日されたとき、怒先生はあまりお話することもなく、麻で織った縦じま模様の衣裳で何曲か踊ってくださった。その時は何と素朴な珍しい踊りと思っていた。後でわかったのだが、この衣裳は怒江州特産の織物で織ったものだそうだ。

怒先生が成田を発たれるとき又きつと中国にいらっしゃいと約束したのがつい昨日のようだった。怒先生も立派になられ、今思うとこんな雄大な、そして山水画の絵の様に美しい風光明媚な秘境で生活されていた怒先生は日本のどんな美しい景色を見てもこのふるさとの光景を思い浮かべて東京での10日間を過ごされたことと思っている。

19時 楽屋入り出発

20時 中国、ミャンマー、日本、合同公演。
プログラムは

ややこ踊り 麦屋節 鳩間仲森
会津磐梯山 越中おわら 黒島口説
21時30分 公演終了後打ち上げ。段先生が十八番の歌を歌う。

11月18日(木) 晴



周培武先生と大野団長

9時30分 集合。出発。

風光明媚な怒江を後に、来た道を引き返す。

12時40分 瓦窯張院飯店にて昼食。バザールでにぎわっていた。

16時 大理文華酒店に到着。

17時 大理故城を見学。

19時 安達音にて夕食。大理歌劇院の方々と会食。1998年に来日した喻良其大理歌舞団団長は出張のため、代理の方が出席した。

11月19日(金) 晴

8時45分 出発

19時 昆明市到着。以前日本に招へいした秦竹芬さんが社長を勤めるアイニー山荘にて夕食。少数民族の歌舞を観賞。

11月20日(土) 晴

9時30分 集合

10時 芸術学院の付属劇場にて舞台稽古。

11時20分 周培武先生宅を訪問。手作りの昼食をごちそうになる。

通訳の聶さんの家で張先生の娘の張芸霄さんがお茶を入れてくださる。

17時 芸術学院の故園に到着。

20時 雲南芸術学院舞蹈学院にて学生さんたちと合同公演。

21時55分 故園にてパーティー。懐かしい方たち(来日経験者)が集まる。 23時 終了

11月21日(日) 晴

9時 前雲南省舞蹈家協会常務副主席の劉金吾先生をお見舞いに病院へ。(9時40分まで)その後翠湖公園へ。ロシアから来たユリカモメに餌をやる。円通寺を参観。

13時30分 来年の打合せ。

17時30分 出発

18時 雲南省文連の招待で東陸酒楼にて上海料理で雲南省文連副主席黄寅敏先生、那家佐先生、秘書長馬衛軍先生、李如春先生、雲南省舞蹈家協会秘書長張亜錦先生、常務理事鄧輝先生等と歓談。

21時 ホテルに戻る。

11月22日(月) 晴

8時30分 集合、出発

10時35分 C Z 3 4 1 便にて香港へ

15時10分 J L 7 3 2 便にて成田へ

20時 成田着。無事に交流を終えて戻る。



怒江傈僳族自治州建州 50 周年大会



怒学文先生の自宅で 張先生と大野団長



大理故城にて



大理の古い町並み



怒江傈僳族自治州建州 50 周年
公演終了後 怒江会堂にて



傈僳族の「摆时」(バイシー)という曲の踊り



沖縄舞踊 鳩間仲森



怒江舞踊団の踊り



文連主催の歓迎パーティー 那先生・黄先生・大野団長



怒江舞踊団の踊り



雲南舞踊学院舞踊学科の学院生と合同公演後



張亜錦先生と傈僳族の人々



怒江傈僳族自治州建州 50 周年記念式典

財団法人 黛民族舞踊文化財団のあらまし

財団法人黛民族舞踊文化財団は、我が国伝統の民族舞踊を舞台芸術として確立し、その普及向上を図るとともに国際文化交流を行うことを目的として、昭和 61 年 3 月文部大臣から設立を許可された法人です。

財団設立後は、(1)民族舞踊普及向上のための中央における公演をはじめ、地方巡業公演を活発に行ってひろく一般にこれを紹介し、また研究成果の発表会等を開催し、(2)後継者の育成を目的として民族舞踊の研究者（音楽、振付けを含む）、舞踊家のための研究会、研修会等を開催して創造活動を奨励すると共に技能の向上を図り、(3)日本各地および中国・韓国・東南アジア諸国の民族芸能を取材し、その研究を行うと同時に収集した資料を整理保存して一般にこれを提供し、将来は資料館を設立して一般の利用に供することを計画しています。また、(4)世界各国にはそれぞれ民族舞踊団が国家の庇護のもとに活動していますが、これら舞踊団との交流や、中国・韓国・東南アジア諸国の民俗芸能伝承者たちとの交流等、幅ひろい国際交流を推進して相互の連携と研鑽につとめ、(5)民族舞踊、民族芸能に関する資料および研究成果等の出版物を刊行して、民族舞踊に対する理解を深める目的達成のため、年次を追って事業を充実していきたいと考えております。

しかしながら、事業を発展充実させていくためには、何と申しましても経済的基盤を確立する必要があることを痛感いたしております。

当財団が、真にわが国を代表する民族舞踊の振興団体として育ってまいりますよう、財団の事業目的をご理解くださり、各界の方々の御支援を心からお願い申し上げる次第です。

つきましては、当財団には賛助会員規定を設けておりますので、皆様にはぜひ賛助会員として、会費により御支援を賜りたく、お願い申し上げます。

民族舞踊文化 No.17

2005 年 5 月 9 日発行 発行人 犬丸 直 編集人 大野 晃

〒107-0052 東京都港区赤坂 3-10-3 黛ビル 4 F

Tel 03-3583-3633(代)
Fax 03-3583-3639

財団法人 黛民族舞踊文化財団

THE MAYUZUMI FOUNDATION FOR TRADITIONAL FOLK DANCE

MAYUZUMI BLD 4F, 3-10-3, AKASAKA, MINATO-KU, TOKYO